

虚血性心疾患

虚血性心疾患とは、心臓の筋肉に酸素や栄養を送り込むため心臓の周囲を走行している冠動脈が狭くなったり、閉塞したりすることで血流障害を起こす病気です。虚血性心疾患は狭心症と心筋梗塞に大きく分けられます。狭心症の場合、症状（主に胸痛）は短時間で改善しますが、心筋梗塞を発症すると症状は持続し、命にかかわることもあります。

カテーテルや CT などの検査で狭心症もしくは心筋梗塞と診断されると以下の治療が行われます。

- a. 冠動脈バイパス術
- b. カテーテル治療
- c. 薬物療法

このうち、b,c の治療は循環器内科で担当し、心臓外科では、a の冠動脈バイパス手術を行います。冠動脈バイパス手術とは、ご自身の体から採取した血管（内胸動脈、胃大網動脈、橈骨動脈、大伏在静脈など）で、狭くなったり、閉塞してしまったりした冠動脈に新たな血液の流れを作って血流を改善させる治療法です。

通常、心臓の手術の場合、手術中の全身の血流を維持するため人工心肺という機械が必要になります。冠動脈バイパス術の場合、人工心肺を使用する方法と、人工心肺を使用しない（オフポンプ）で行う方法があります。患者さんの心臓の状態や大きさ、および大動脈の性状などを加味してどちらの方法で行うかを決定します。当院では90%以上の患者さんをオフポンプで行っており、両側内胸動脈を使用したバイパスを主体としております。



両側内胸動脈
と胃大網動脈
を使用したバ



両側内胸動脈と橈
骨動脈を使用した
バイパス手術

急性期の心筋梗塞合併症治療：

虚血性心疾患のうち心筋梗塞は冠動脈の突然の閉塞により心筋の壊死が起こり心機能の急激な低下だけでなく、様々な合併症が起こり命に関わってきます。心破裂・乳頭筋断裂・心室中隔穿孔といった合併症は急激に発症し重篤な状態に陥るため、緊急で手術を必要とする事が多くあります。致命的となる事が多く、病院に来られるまでに亡くなる方もいます。これらの病気に対しても我々

は積極的に取り組んでおり、救急科、循環器内科と協力し多くの症例を救命しております

慢性期の心筋梗塞合併症治療：

心筋梗塞後に心機能が低下し、徐々に心臓が負担に耐えられなくなる状態を虚血性心筋症と言います。呼吸困難などの心不全で発症することがあります。心臓の拡大を伴い、特に僧帽弁閉鎖不全症という心臓の中にある弁の逆流が問題になり手術介入が必要になることがあります。当科ではこの疾患に関しても積極的に治療を行い、僧帽弁だけでなく適応のある方には必要に応じて左室形成手術なども行っております。